

平成 27 年度第 2 回岩倉市教育振興基本計画推進委員会議事録

1 日時 平成 28 年 2 月 16 日 (火) 午後 2 時～

2 場所 生涯学習センター研究室 2

3 出席者

愛知教育大学教授・附属名古屋小学校長	土屋 武志
岐阜大学地域協学センター長・教授	益川 浩一
岩倉南小学校 P T A 会長	野崎 要
南部中学校 P T A 会長	横井 孝次
曾野小学校長	村瀬 とみ子
南部中学校長	高橋 宏滋
特別支援担当教諭 (岩倉東小学校)	奥村 寿英
日本語・ポルトガル語適応指導教室室長 (曾野小学校)	村瀬 英昭
学校栄養職員 (岩倉北小学校)	金成 淳子
音楽担当教諭 (岩倉中学校)	熊木 夕子
体育担当教諭 (南部中学校)	鬼頭 功一
文化財保護委員会 委員長	中山 春義
文化協会 副会長	青木 豊
婦人会 会長	寺澤 陽子
社会教育委員の会議 委員長	内藤 和子
図書館協議会 副会長	小杉 美智子
体育協会 理事長	永井 可元
スポーツ少年団 本部長	今井 秀明
スポーツ推進委員 委員長	武藤 栄司
岩倉幼稚園 園長	町田 竜介

(事務局)

教育こども未来部長	山田 日出雄
学校教育課長	石川 文子
管理指導主事	有尾 幸市
学校教育グループ長	今枝 かづき
生涯学習課長	片岡 和浩
生涯学習グループ長	中野 高歳
スポーツグループ長	木村 伸佳

(計画策定支援業務受託者)

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所	江口 陽子
	土屋 志衣乃

(傍聴者)

なし

4 会議内容

午後 2 時 開会

(開会)

○事務局

皆さま、こんにちは。定刻となりましたので、これより第2回岩倉市教育振興基本計画推進委員会を開会させていただきます。なお、熊木委員につきましては、遅刻の連絡をいただいております。委員の皆さまにおかれましては、ご多忙のところ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。本日、進行を務めさせていただきます学校教育課長の石川でございます。どうぞ、よろしく願いいたします。では、お手元に配布いたしました次第に沿って、進めてまいります。

配布資料の確認

○事務局

続きまして、岩倉市教育こども未来部長の山田日出雄よりごあいさつを申し上げます。

(部長あいさつ)

○教育こども未来部長

皆さま、こんにちは。第1回目の会議を10月に開催しましたので、少し時間が経ってしまいました。その間に、市民、児童生徒、そしてその保護者の方を対象にアンケート調査を行いました。また、関係団体にヒアリングを行っており、現在進行中です。それらを踏まえ、皆さまのご意見をいただきながら、次回の骨子案の作成を進めていきたいと思っております。また、本日の骨子案はまだ粗く構成だけの内容ですが、確認していただき、ご意見をいただきながら内容を固めていきたいと思っております。限られた時間ではありますが、皆さまにご意見をいただきたく思います。よろしく願いいたします。

○事務局

ここからは土屋委員長に議事、進行をお願いいたします。

(委員長あいさつ)

○委員長

こんにちは。寒暖の差が激しくなっておりますが、体調は崩されていないでしょうか。出席が多いということは皆さまが健康だということかと思っております。

岩倉市は施設がとても良く、どこの施設も快適な環境があります。市役所のロビーでは高校生が勉強をしている姿がみられ、それほど学習環境、施設環境が良く落ち着く場所なのだと思います。

した。そういった施設面での充実を市が図りながら、市民が、そして子どもたちが市を大切に思い、その後ずっとここに暮らしていけるようなまちづくりに生かしていけるのかというのが、我々が取り組んでいるこの「教育振興基本計画」なのだと思います。

先だって行われた調査等の結果を踏まえて、どのような教育振興基本計画にしていってよいか、という忌憚のないご意見をいただいて、それをまとめて次の会議に向かいたいと思っております。調査結果では、岩倉市に住み続けたいというのは小中学生で5～6割ではなかったかと思っております。この数字が良いのか悪いのかは分かりませんが、「これを8割にするんだ」という思いがあるのならばそれに対応した取組が必要になるのだと思います。よろしくお願いいたします。

(協議事項)

(1) 岩倉市の教育等に関するアンケート調査結果について

○委員長

では、次第に沿って進行します。議題(1)「岩倉市の教育等に関するアンケート調査結果について」事務局から、説明をお願いします。

資料1-1、資料1-2に基づき「岩倉市の教育等に関するアンケート調査結果について」事務局より説明

○委員長

それでは、今、議題(1)についてご説明いただきましたが、ご質問やご意見はありますか。

○事務局

今ご説明した概要版とは別に本冊があり、そこで年代別、学校別等のクロス集計をお示しています。そちらと見比べていただければと思います。

○副委員長

保護者の母数は、694と考えてよろしいのでしょうか。概要版の15ページの保護者アンケート「保護者の悩み」についてですが、回答数が小学校5年生で332、中学校2年生で270となっています。合計が694にならなくてもよいのでしょうか。

○事務局

学年の不明者がいるため、それを除いてあります。

○委員長

今まとめているのはアンケート項目だけだと思いますが、自由記述はありましたか。

○事務局

かなり膨大な量なので、今は掲載していません。

○委員長

自由記述を書いている方がけっこういらっしゃったということですね。

○事務局

多くいます。必要があれば、類型化してお示しすることは可能だと思います。時間的なこと、分量的なことでは今回は間にあいませんでした。

○委員長

先程の児童生徒アンケートの19ページ、学校生活における満足度の回答の中にあつた「④クラスの雰囲気」とは一体何を指すのかと思いましたが。約1割が不満を感じているということですが、本人がそう思っているということですね。

アンケート結果についてはよろしいでしょうか。では、次に進みます。議題（2）岩倉市の教育に関する団体ヒアリング調査中間報告について、事務局より説明をお願いします。

（2）岩倉市の教育等に関する団体ヒアリング調査中間報告について

資料2に基づき「（2）岩倉市の教育に関する団体ヒアリング調査中間報告について」事務局より説明

○委員長

議題（2）について、事務局より説明がありましたが、何か質問などはございませんか。

委員の中には、ヒアリング調査に関係している方もいらっしゃると思いますが、特に強調したいことなどがありましたら改めて紹介していただければと思います。また、他分野のことについての質問等もあればお願いします。事務局の方でも、方向性に悩んだ意見やこの場で聞きたいことなどがありましたら出していただければと思います。いかかでしょうか。

家庭教育、幼児教育はどこに聞かれたのでしょうか。幼児教育については幼稚園の先生がいらっしゃいますので、補足等があればお願いいたします。

○委員

質問でもいいでしょうか。アンケート対象者は小学校5年生と中学校2年生となっていますが、3歳から5歳の幼児が小学校にスムーズに入っていけるように、幼稚園・保育園と小学校との連携が必要だと思います。今もやっていますが、子どもたちが小学校に馴染めるようにすることが大切です。質問と答えが合っておらず申し訳ありません。

○委員長

幼児教育と小学校との繋がりについてのご意見でしたが、何か必要だと思うことがあれば、宜しく願いいたします。小学校からの意見はいかがでしょうか。

○委員

幼稚園・保育園と小学校、中学校との連携についてですが、先日は「1日入学」という、来年小学校にあがる子どもと保護者を対象にした交流会、説明会を開催しました。幼稚園・保育園の子どもと小学校1年生の子どもとが交流することで「学校はこんなにいるところなのだ」と思ってもらえるように連携を図っています。また、入学後1か月程度経つと、担任も子どもの状況が分かってきますので、その時にもう一度情報交換を実施しています。このように幼稚園・保育園と小学校とは密に連携ができています。なお、小学校と中学校でも情報交換を行っており、連携が図れるよう努力しております。

○委員長

先程のアンケートとも関連しますが、今回の調査では図書館の利用率についても盛り込まれています。岩倉市では読書活動と音楽活動を強調しておられる印象ですが、幼児教育からの家庭・地域での読み聞かせ等の活動と連携がとれているのでしょうか。また、図書館との関係性はどのようになっているのでしょうか。小学校、幼稚園・保育園や認定こども園も含めてのことになると思いますが、必要なサービスや、今の取組状況から、今後強化していきたい部分についてなど、いかがでしょうか。

○事務局

今、実際にいろんなところで読み聞かせの取組を行っており、今日も図書館からおみえになっておりますので、お話しいただければと思います。

○委員

27ページからの図書館についてのアンケートは私も書かせていただきましたが、まだ反映されておられません。岩倉市では100名以上の図書館ボランティアがおり、各小中学校に10名以上、多いところは30名以上在籍しています。それらの人が、ボランティアとして過ごしやすい学校図書館づくり等をしながら、読み聞かせ活動、お話し会活動、教室に入っの朝の読み聞かせ、30分放課に行う大型紙芝居などを中心に活動しています。大型紙芝居は、岩倉市の人や歴史をとりあげたものなど、岩倉市を好きになってもらいたいという思いを込めてつくったものを活用しています。子どもたちが話を聞くだけでなく、高学年の子どもが低学年の子どもに本を読んであげるなどの活動にも繋がっているため、子どもたちがさまざまな活動に取り組む一助になっているのではないかと意識でやっております。

年3回、学期が終るごとに図書館に集まって、「岩倉市図書ボランティアネットワーク」を開催しています。今週も開催されますが、学校にいる読書指導員も集まって、目的や目標がずれてしまわないように想いを共有しながら、連携、スキルアップに取り組んでいます。そういったことがここに反映されれば良いと思います。

○委員長

学校の読み聞かせも含めて、活動のマネジメントは学校が行うわけではなく、その協議会が行うということなのでしょうか。

○委員

個々の計画はすべて図書館ボランティアが行います。学校からは、時間やテーマの設定などで希望が出されることがありますが、特に希望がなければ図書館ボランティアが準備しているもので行います。そして活動のサポートは図書館がしています。

○委員長

土日に限らず、平日の学校の時間の中で行うのでしょうか。

○委員

授業開始前の 10～15 分間、30 分放課、昼放課などに行っています。授業に入るかたちはあまりとりません。

○委員長

でも学校の中に入るのですね。

○委員

はい。学校の中に入っています。

○委員長

学校の数が7校というコンパクトな市だからできることなのかもしれません。通常だと学校ごとでやっておりばらばらになることが多いのですが、全体で統一化されているということです。

○事務局

学校の現状としては、小学校5校で行っており、ここ最近で中学校2校でも始まりました。週に1回、図書館ボランティアによる10～15分程度の読み聞かせを行っています。年間を通じて行っているのも、子どもたちも大変楽しみにしています。また、大型紙芝居も学期に1回、イベントとして実施し、休み時間等を使って広い場所で行われています。近隣の幼稚園・保育園の子どもたちにも来てもらい、交流の場に行っている学校もあります。読み聞かせの習慣ができていると思います。

○委員長

意図的に進めているということですね。これからの国の施策でも、学校教育だけではなく、学校と地域が協力し連携して子どもを育てていく、それを学校がマネジメントしていくことになってくると思います。岩倉市では、市がマネジメントして学校と市民団体とを結び付けるかたちで進んでいるということですので、先取りしていると言えるでしょう。他地域のモデルになるよう

な気がします。ただ、中学生で読書量が減ることが少々気がかりです。

○事務局

中学生になると部活も忙しく、インターネットも普及してくるので、そちらに時間が割かれて読書量が減ってきてしまうのだと思います。このようななか、少しでも読書離れを食い止めるべく、改訂時期を迎えている「子どもの読書活動推進計画」にも取組を盛り込んでいきたいと思えます。

○委員長

中学生と図書館ボランティアとが話をする機会を設けるなどして、どのような取組があればもっと中学生が図書館を利用したり本を読むのか、という方向性を探っていけたらいいと思います。

○委員

一番新しくできた図書館ボランティアのグループは、岩倉中学校です。生徒が愛称を決めてくれましたが、その名前が「おはなしなんだし」というものです。大人では考えつかないアイデアで、とても上手く私たちを取り入れてくれています。

○委員長

岩倉中学校の生徒も参画意識があるということですね。学校は地域の中心になってくる施設ですが、学校の先生以外の人に関わる中で、生徒自身が地域の一員であるという自覚を持っていく活動は、市民としての育ちにつながってくるのだと思います。岩倉市にはそのような素地があるように思いました。

また、岩倉市の課題のひとつとして、外国籍市民が多いことがあげられます。アンケート、ヒアリングでは外国籍市民のことを取り上げて位置付けていますが、このことについていかがでしょうか。

○委員

アンケート結果をみて、外国籍市民への注目度が低いことが逆に良いと思えました。問題が多いのであれば注目度が高くなるはずですので、この結果は問題がない事の表れではないでしょうか。岩倉市は面積が狭く、7校だからこそできる取組があると思います。例えば、岩倉市の日本語適応指導教室は全国でも注目されており、すばらしいと言われています。小さい市だからこそそのメリットを生かした活動ができるようにしていきたいと思えます。問題はたくさんありますが、「外国人だから」というような意識をなくせるようにしていきたいです。

○委員長

ありがとうございます。先ほどのヒアリングのなかで、施設の利用が固定化しているということや、市外の人々の施設利用に関する意見もありましたが、施設の使いやすさなどに課題はあるのでしょうか。

○事務局

スポーツ施設として総合体育文化センターが平成2年にできました。当時は市内と市外の利用者について、利用料金の区分を設けませんでした。稼働率は高く、スポーツ少年団やスポーツレクリエーションの団体が定期的に利用しています。最近、いろいろなスポーツが盛んになり、活動は平日の夜や土日が中心になってきますので、利用時間帯はある程度重なってきていると感じます。そういったところが少し使いにくいという印象につながってきてしまっているかもしれません。

生涯学習センターは、市内と市外の利用者の利用料金は倍違います。サークル活動や講座などで稼働率は高く、一般の方々が使いたいと思った時に、その時間帯が空いていないということは多いようです。駅に近いので、市外の人も多く利用されているのが実態です。時間帯の問題も出ていましたが、総合体育文化センターは、オープン当時、1日5区分、休憩時間を挟んで夜9時半まで利用していただいていた。その後、利用時間を見直し、休憩時間をなくして1日6区分の2時間単位にして、最終9時まで利用していただき、9時半までに出していただく、というかたちにしました。このことにより、最終時間が30分早まった印象もあるかもしれません。

○委員

今の課長になられてから、時間を見直したり閉館日をなくしたりと、以前より拡大していただいています。利用時間帯も上手く2時間で区切り割り振っており、良いと思います。最初は抵抗がありましたが、体育協会としてはこれで助かっています。施設には近隣市からも来ており、一宮市の小学校のバレーボールチームも利用しています。利用率が高いので上手く使われていると感じます。希望を言えば、もっともっと施設を増やしてほしいですし、サッカー場、野球場やプール等もほしいです。

○委員長

学校施設を使う例は少ない感じでしたが、どうでしょうか。

○委員

学校施設は、老朽化が激しいです。お金がないので大変ですが、特に北小学校などは老朽化が著しいので、早く直してほしいです。学校施設も先生方にも配慮していただきスポーツでの利用率は高いと思います。

○委員長

市民と連携しながら生涯教育を考えていくときに、学校施設も含めて対応できるよう、考えていく必要があるかもしれません。

○事務局

学校施設は積極的に開放しており、土日も使っていただいております。施設の老朽化については財政的な問題もあるので計画的に進めていきたいと思っています。

○事務局

施設を開放して、積極的に市民の皆さんに利用してもらっているということは、市の財政担当へのアピールポイントにもなると思います。

○委員長

市長さんにも積極的にまちづくりを進めていただくことになろうかと思えます。また、岩倉市では音楽についても市の特色として取り上げておられますが、今後、教育活動の中でどのように推進していくのかというのもポイントになるかと思えます。

市民ニーズでは、演劇やコンサートなどの文化活動をもっと積極的にしてほしいということもありました。

○事務局

アンケートの中では、本物にふれる機会を増やしてほしいという意見はありました。我々としては、特にセントラル愛知交響楽団にご協力をいただきながら、小学校での指導やコンサートなどに取り組んでいるところです。ふれるだけではなく、どうやって市民の方に体験をしていってもらうかが課題だと思っています。

○委員長

市民がセントラル愛知交響楽団の演奏を聴く機会はあるのでしょうか。

○事務局

定期演奏会や、市役所のロビー、駅でのコンサート等、さまざまな場所で演奏し、市民が音楽にふれる機会を用意させてもらっています。

○事務局

児童館でも、遊びの要素を取り入れた音楽イベントも行っています。セントラル愛知交響楽団でも、外に出て行く活動や体験的な取組も盛んですし、学校の音楽指導も行っています。

○委員

楽団側にも演奏の都合があり、いつも同じ人に指導していただけるわけではありません。継続して同じ楽器の方に来ていただける場合もありますが、岩倉中学校では年12回のうち、全体の合奏の状況をみてほしい、または個々に楽器演奏を教えてほしいなどと要望を出すと、それに見合った人が楽団より派遣されてきます。金管楽器、木管楽器それぞれに、毎回、同じ人に継続してみてほしいと要望を出しても、楽団の都合もあります。来ていただける方は本当に質の高い、良い指導をしてくれます。

○委員長

セントラル愛知交響楽団とのコミュニケーションは誰が担当しているのでしょうか。

○委員

直接、顧問と楽団の窓口担当者が交渉しています。

○委員長

その費用は市が出すのでしょうか。もう少し宣伝してもいいかもしれません。

○事務局

財政難で縮小しているのですが、継続して行っていきたい活動です。セントラル愛知交響楽団でも楽団の方が世代交代していると感じます。

○委員長

市の特色を生かした計画にしていこうということで、皆さんが当たり前と思われることでも、あえて強調して聞いてみました。コンサルタントの方でもそれらを意識してまとめていくということになると思います。

○副委員長

先程の施設の使いにくさや老朽化等の話とも絡んでくるかもしれませんが、図書館の利用率はこれくらいなのでしょうか。利用者自体は多く、にぎわっているのではないかと思います。アンケート結果をみると一度も利用したことがない人が3割、この1年利用していない人も3割ということです。図書館の利用についてこのアンケート結果をどのようにとらえたらいいのか、というのが質問の1点目です。

また、言いにくいことですが、重要度が高く、満足度が低いものに「教職員の指導力」が、市民と保護者両方であげられています。これをどう位置付けて、どう考えていけばいいのか、というのが2点目です。

そして3点目としては、岩倉市への愛着や誇り、将来の意向等も聞いてもらっているので、これと絡めて教育活動をどうとらえていくのかという議論が出てもいいように思います。特に文化、歴史というものは誇りとして大事にしていきたいものとしてすべての調査で高い割合を示しています。生涯学習でも活用できるコンテンツだと思います。愛着や誇りと将来の意向と教育活動をリンクさせるような方向性が何か出せないだろうかと思っています。

最後は、生涯学習のところをみると、例えば27ページの「今後活動したい」という人が40.6%と出ており、これは良い数字だと思います。生涯学習へ誘う取組も市として進める必要があるのかと考えられます。一方で、活動を継続したい人が87.8%、そして地域の教育活動に参加したいという意向を持つ人が30代で高いという結果が出ていることも鑑みると、生涯学習をしている人、特技を持っている人がそれを生かすという視点も、地域ぐるみの教育活動の展開のためには必要なかもしれません。今の生涯学習の議論は成果をどう生かすかという点が中心になりがちだと思いますが、もう一度初動の部分として、活動に誘うことも大切なのではないかと感じました。

○委員長

もしかしたら、市外の人で図書館がにぎわっている可能性もあります。

○副委員長

こんなに少ないものでしょうか。

○事務局

図書館は施設が非常に手狭なので、館内利用者数を右肩上がりに伸ばしていくことは現実的に難しく、館外利用が中心にならざるをえないと思います。しかし、子ども向けの本の貸出が増えているので、読み聞かせの成果も現れていると思います。一宮市のように駅前に図書館をつくったりすれば別ですが、現状ではハード的な制約があると考えています。

教職員の指導力については、学力向上に対するニーズが現れていると考えます。計画の中で確かな学力をどのように定着させ、向上させていくかについてここで議論しながら書き込んでいきたいと考えます。

愛着という点については、今回はあえてこの項目をアンケートに盛り込みましたので、議論していきたいと思います。どこまでの割合があれば十分なのかは難しいところですが、よりここを高めていくための方策を検討していきたいと思います。

生涯学習について他の市民アンケートでも出てくる課題ですが、意向はあってもひまがない、というのが実態だと思います。生涯学習センターができたことにより、利用のしやすさは公民館時代に比べて格段に良くなったと思います。一方、生涯学習センターは利用率が高まりいっぱいであることも事実ですので、既存施設の活用も進めながら検討していきたいと思います。また、生涯学習の最終目標でもある社会貢献、自己実現の意向は高いものがありますので、場と時間の両面も考慮し、市民活動という捉え方もしながら、参画を促進していきたいと思っています。

○委員長

市民に歴史・文化に愛着を持ってもらえるような、日々の知恵やご意見があればお願いいたします。

○委員

文化協会の中に郷土研究会があります。岩倉市には山車が3台ありますので、それを含め、岩倉の郷土に関する講演会を生涯学習センターで行い、市民の皆さまに伝えています。

○委員長

その講演会は継続していきそうなのでしょうか。

○委員

郷土研究会が毎年講演内容等について検討し、実施しています。

○委員長

市民が講演会をきっかけにして活動に入っていきような、興味を持てるような仕掛けも必要かもしれません。

○委員

今回のアンケートの回収率が45%ですが、この結果を岩倉市民の声として捉えてよいのでしょうか。声なき声はまだあるのではないのでしょうか。

それから、岩倉市には山車や桜もありますが、この他にも指定文化財があります。これを市民の方に公開し、ふれていただく機会を設けてはどうでしょうか。

また、文化財関係のヒアリング対象に民具研究会が入っているのはおかしいのではないのでしょうか。文化財と民具はまったく違うと思います。

○委員

我々が自治体と一緒に共同研究を行うときは、回収率50%を目指します。50%回収できればかなりいい方ですので、45%の回収率はそれほど悪い数値ではありません。声なき声については自由回答がかなりあるとのことでしたので、大変であることは重々承知しておりますがカテゴリ化する等してまとめていただきたいと思います。

前回の会議の冒頭で回収率を高める努力をお願いしたと思いますが、その努力をしていただいた結果か、あるいは市民の意識が高いということの現れだだと思います。

○委員長

それを補完する意味でこの会もあるので、皆さまからのいろいろな意見をいただき、計画に反映させていければと思います。「文化財とふれる市民づくり」のようなことですね。

○事務局

ご意見をいただければ計画の中に盛り込んでいけるとと思います。活発なご議論をお願いしたいと思います。

○委員長

事務局にとっては財政のことが頭をよぎると思いますが、未来の財政はもっと良くなっている可能性もあります。未来のために、市民がもっと増え、岩倉市に定住できるようにするためにこの計画もあると思います。

○副委員長

生涯学習センターは何時まで開館していますか。ヒアリングの結果に、終電まで使えるようにしてどうかという話も出ていたようです。

○事務局

9時半まで開館しています。

○副委員長

生涯学習センターが名鉄沿線にあるという立地条件を意識したものでしょうか。生涯学習活動

の障壁として、時間がないことや仕事が忙しいということがありましたので、この立地を意識して活用しているのでしょうか。

○事務局

実際に、何時まで開館していればいいのかというのは難しい問題です。

○副委員長

時間のことだけではなく、内容や対象者のことなども含めてです。

○事務局

当然ここをつくる際には、駅に近いので会社帰りに使えるようなものを、ということは考えていたと思います。実際のニーズ等も把握しながら対応していくかたちになると思います。開設当初から大きく変わってはいませんが、以前の公民館よりも使い勝手は良くなっているでしょうし、講座も幅広いメニューで、柔軟な対応をいただいています。

○副委員長

実際は難しいですね。岐阜市も生涯学習センターが高架下にあります。当初は仕事帰りなどに寄ってもらえるよう、ナイトレクチャー等を試みましたが、実際は上手く活用できていませんでした。何とか地の利を生かす取組ができないかと思いました。

○事務局

総合計画をつくった時に、市民の皆さまに絵や物語をつくってもらいました。その中に、市民の人が講師になって講座を開催し、その後、駅前で打ち上げをする、というものがありませんでした。なかなか現実には難しいものですが、10年計画ですので、最終的な実現したい将来のイメージとして持っておいてもいいかと思います。

○委員長

皆さま、ご意見をありがとうございました。では、次の議題（3）に進みます。では、「議題（3）岩倉市教育振興基本計画（骨子案）」について、事務局から説明をお願いいたします。

（3）岩倉市教育振興基本計画（骨子案）について

資料3・4に基づき「岩倉市教育振興基本計画（骨子案）」について事務局より説明

○委員長

骨子案は基本的に次回の議題になりますよね。基本方針案は本日決定するのですか。

○事務局

基本理念のキーワードをいくつか列記していますが、これについてご意見をいただき、それを

もとに事務局で文章化していきたいと考えます。大枠がこのようなかたちでよろしければ、次回までにこの内容をふくらませて、ご提示していきたいと思えます。

○委員長

先程の意見はずいぶん反映されていると感じました。特に資料4の中には丁寧に意見が反映されて、盛り込まれているのではないのでしょうか。大枠が提示されましたが、この方向性で内容を精査し、次回提案されるということですが、皆さま、ご意見やご要望等はないのでしょうか。

○事務局

施策の方向性だけではイメージが湧かないと思い、イメージしやすくするために現在行っている事業名を記載しています。このような内容が入るということを踏まえながら、精査し、文章化していくこととなります。

○委員長

追加等はあればまた教えていただき、次回また固めていくことになるので、宿題というかたちになるかと思いますがよろしいのでしょうか。「まちづくりびと」というのが、ひとつ特色のある表現ですね。

○事務局

キーワードで気になる文言があれば、意見をいただけるとありがたいです。

○委員長

記載のレベルもあるでしょうね。「山車」という言葉を入れていいものかどうか、などです。

○事務局

これからもう少し抽象的な、総合的な文章になっていくかと思えます。

○委員長

資料4のようなものを作成すれば、抽象的なものではなく、具体的な施策にも繋がっていくと思えます。その部分で皆さまのお知恵が必要になるかと思えます。

○委員

「一市民一スポーツ」とありますが、これまでもスポーツ推進はずっとこの文言で進んできました。せっかく新しくつくるのであれば、変えてほしいと思えます。では代わるものは何かと言われるとないのですが、これだと少し古く感じます。

○事務局

総合計画の中間見直しをした際にも、この文言は変更しませんでした。事務局案でも上位計画と合わせてそのままにしていたのですが、基本目標の文言は変更し、「一市民一スポーツ」は文章

の中に入れるなど、対応を検討したいと思います。

○委員

教育すべて含めて、自分自身が今思っていることですが、自分の子どもは親が育てるものです。これをみると学校などが子どもを育てるような印象です。読書のことをとつても、お父さん、お母さんが夜寝る前に読み聞かせをしていれば、本が好きな子どもになるのではないのでしょうか。家庭でやるのが大事だということ、そして親を育てるような取組が何かかたちになってできればいいと思います。

○事務局

家庭でやるべきことができていないために学校に影響が来てしまっている、ということは実際に出ていると思います。現在、子育て親育ち推進会議という取組を行っているところですので、施策で言えば3つしか出ていませんが、必要に応じて枝番なども追加しながら書き込んでいきたいと思います。

○副委員長

「まちづくりびと」というのはあくまで次世代を担う子どもたちのイメージでしょうか。それとも、地域の絆やコミュニティづくりなども含めて考えて良いのでしょうか。全体としてとらえて良いのならば、もしかしたらこれが大きなキーワードになってくるかもしれません。一方で子どもや若者に限定するならば今のような位置付けになるのだと思います。

○事務局

「教育プラン」で出しているものですので、今までの使い方は子どもに対するものです。教育振興基本計画に位置付けるというのならば、すべての人にとっての「まちづくりびと」になるだろうと思います。総合計画でも出ています「役立ち感」といったところに繋がられるのではないかと思います。

○副委員長

この計画のシンボルになるようなワード、キャッチフレーズがあると分かりやすいような気がします。愛知県の計画にある人間像はよく分からないので、分かりやすいという点ではこの「まちづくりびと」というのは良い言葉だと思いました。

○委員長

次世代に対して使用しても、「まちづくりびと」を育てるのは市民全体で、という意味付けで表に出すことも可能ではないのでしょうか。そうしないと、どこの市町でも同じような計画になってしまうと思います。

それでは、これは次回検討することとします。それまでにご意見等ありましたら、事務局までよろしく願います。これにて、本日の議事は終了します。では、その他については事務局に進行を戻しますので、よろしく願います。

その他

○事務局

次回の会議の検討内容につきましては、本日、皆さまからいただいたご意見を元に、骨子案の内容を確認し、基本理念、基本方針、方向性について検討し、意見交換を行いたいと考えています。

また次回の会議の開催日については、5月を予定しています。委員の皆さまも大変お忙しいので、日程を早めに決定したいと思いましたが、年度も替わるため、事務局で調整させていただき、3月下旬から4月初旬に連絡を致します。なお、代理出席は不可となっておりますので、ご了承ください。

以上で本日の会議を閉会させていただきます。長時間にわたってご協議いただき、ありがとうございました。

午後4時20分 閉会